





まだ名も無い小さな少女は花籠で眠る。

塗装を終えたばかりの素の姿

小さな少女の身体にペイントを入れてみた。



少女の柔肌にタトゥーを入れたとしたら  
きっと、いつまでも赤く腫れがあるのではないだろうか.....  
そんな妄想のもと、ほんのりと赤みを入れた後に  
黒い塗料で描いてみた。

彼女の囁きは痛みさえ感じるはずの無いヒトガタではあるけれど  
その声なき声を花籠の中で花たちは聞くのだと思う。



アイホールを広げることなく、やや大きな目に見えるようにと思って  
アイラインは濃く、広く、描いた。

下睫毛も太めにして、付け睫毛は付けず  
ややアニメよりの描き方で仕上げてみた。

その瞳で見つめるものは未だ名も無い彼女だけが知る。



無垢であることと  
純真である事とは  
きっと別のことなんだ.....。

ボディの分割にかからないように描いてみた。  
色彩を使わずに黒だけで入れたボディペイントは  
若草のようなイメージで図案を考えた。

## 仰ぎ見る

---

生まれ出でたばかりの少女のヒトガタ  
その頭上にあるのは青空でも、星空でもない。





何を訴えても彼女の声は届かない。  
それでも何かを告げてきているような  
そんな表情を作れていたらと思う。

## 花を抱く

---



いつか花咲くときが来るかのように  
少女は花を抱く.....いつまでも  
いつまでも、同じ姿のままのヒトガタであるからこそ。



この子の塗装は未完である。  
まだまだ手を加えていこうと考えている。



名も無きヒトガタだけれど  
その瞳で見て、その耳で聞いて  
きっと彼女は夢を見る.....  
花に埋もれて夢を見る。



この段階では研磨も未完の箇所がある。

気泡やバリの多い素体なので研磨には時間がかかるのだ。

簡単に塗装についての内容

水彩色鉛筆 / アクリル絵の具 / パステル

UVカットスプレやクリア液、ジェルメディウムなども使用している。



彼女は造形士さんが粘土で造形を作り  
そこから型を取り、レジンキャストを流し込んで  
1つ、1つの部品を組み込まれてヒトガタになった。  
それに塗装をして、瞳をいれ、かつらを被せて少女となる。  
愛らしいヒトガタは欲しくない。  
傍において、何かを囁き掛けてくる様な  
そんな一種の不気味さを求めている。



ボディペイントの上に小さな銀の粒を貼り付ける。  
赤みに自然さを出そうとパステルを重ねる。  
付け睫毛をして中性的な雰囲気から少女らしさを目指した。



手足の爪、膝頭、手の甲など

わずかな赤みが少女の雰囲気を変えていく。

決して可憐でも、純真でもない

何かを訴えかけてくるような少女に仕上げたいと思う。



季節外れの浴衣を着せてみた。  
慣れぬ衣装が気に入らないのか  
彼女は笑ってはくれなかった.....。



いつもの花籠に安心したかのような眼差し  
窓辺の赤い日の光り  
いつか、彼女は生きた花を愛でるのだろうか。

## 少女のように振舞う

---



どれだけ愛らしい衣装を身に付けたとて  
彼女は知らぬはずのことを知るような存在であって欲しい。



何かを待つような立ち姿。

それは、きっと夕闇から宵へと変わるとき  
月の明かりを待つような童であればいい。



左足に入れた模様

愛らしく、美しい衣装を纏っても  
その下にある素肌の妖しさを隠そうとは思わない。  
きっと彼女は童のような姿で  
童ではありえないのだから。

## 撮影した人形の紹介

---

今回、撮影した人形の紹介をいたします。

「創作人形士・アリアーヌ様」による造形、制作されたキャスト製人形

身長：約30cm

塗装：猫屋雑猫

衣装：「彩花 ドールのための着物と衣裳」

<http://www.ayaka-doll.net/>

## ヒトガタ画像・少女

<http://p.booklog.jp/book/34142>

著者：猫屋雑猫

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/nekoyazathuneko/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/34142>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/34142>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.